

狐原山の植物たち

	名 前		特 徴
1	ハネミノイヌエンジュ(翅実犬槐)	マメ科	落葉高木。根粒菌があり土が肥える。夏、枝先に白い蝶形花を付ける。
2	コナラ(小櫓)	ブナ科	雑木林を代表する木。薪や炭、しいたけの原木に用いられた。小さい櫓という意味、葉の裏が白い。その年の秋にどんぐりをつける。
3	イソノキ(磯の木)	クロウメドモドキ科	落葉低木。葉は長楕円形でサクラに似ている。花は黄緑色。実は緑色から赤色、紫黒色に熟す。
4	コバノガマズミ(小葉莢迷)	スイカズラ科	落葉低木。葉は楕円形で先が尖り、葉の縁は粗く鋭い。春に白い小花を多数付ける。きれいな赤い実を付ける。
5	アラカシ(粗榧)	ブナ科	常緑高木。どこでも見られ数もいちばん多い。その年にどんぐりを付ける。
6	ナツハゼ(夏櫓)	ツツジ科	実が黒色に熟し食べられる。ブルーベリーの間。紅葉がきれいで生け花に用いられる。
7	コバノミツバツツジ (小葉の三葉躑躅)	ツツジ科	3月から4月にかけて紅紫色や淡紅紫色のきれいな花を付ける。枝の先端に3枚の葉を輪生する。
8	イロハモミジ(イロハ紅葉)	カエデ科	別名イロハカエデ、タカオモミジ。葉の裂片を「いろはにほへと」と数えたことから付けられた。モミジというと、普通本種を指すことが多い
9	タンナサワフタギ(耽羅沢蓋木)	ハイノキ科	鋸歯が粗い。黒い実を付ける。(覚え方・旦那は気が荒い)
10	ウリカエデ(瓜楓)	カエデ科	葉が対生、木の肌が瓜の果皮に似ていることからこの名が付いた。秋にはきれいに紅葉する。
11	ウメ(梅)	バラ科	中国から伝わる。観賞用や梅干用に様々な園芸種がある。剪定は翌年の花芽ができる夏の後におこなう。
12	ソヨゴ(冬青)	モチノキ科	葉がかたい。葉を火であぶると風船のように膨れてはじけ、葉が黒くなる。秋にたれ下がって付く赤い実が可愛い。
13	ヒサカキ(姫榊)	ツバキ科	常緑小高木。サカキやシキミの代用に使われる。果実は秋に黒く熟し染料に用いられる。
14	サンキライ(山帰来)	ユリ科	別名サルトリイバラ。赤い実は猿の好物でこれを餌に猿を捕まえた。新芽はお浸しテンプラに。
15	クリ(栗)	ブナ科	落葉高木。初夏、においの強い花を咲かせる。店頭で見られる大きな栗は栽培種。材は腐りにくく鉄道の枕木に使われた。
16	ネジキ(掬木)	ツツジ科	幹が(特に根元の方)ねじれるのでこの名がついた。高宮地方では「狐箸」。根元を磨いて飾り物にする。冬に触ると暖かいので「猿のてぬぐめ」とも言う。
17	ヒロシマエバザクラ(広島江波山桜)	バラ科	広島市中区江波山に咲く天然記念物「広島江波山桜」の苗木。ヤマザクラの花びらが5枚なのに対しエバヤマザクラは5~13枚。
18	ヒバクザクラ(被爆桜)	バラ科	旧広島庁舎で被爆したソメイヨシノの接木の苗木。
19	カワツザクラ(河津桜)	バラ科	カンヒザクラと早咲オオシマザクラの自然交配種といわれている。花期も1ヶ月と長い。静岡県河津町に原木がある
20	マルバハギ(丸葉萩)	マメ科	土が肥える。8~10月に葉の脇の葉より短い総状花序を出して花を付ける。ヤマハギは別種。
21	エゴノキ	エゴノキ科	落葉高木。5~6月新枝に垂れ下がって咲く白い花が美しい。果実をバケツに入れつぶし、石鹼の代わりに用いた。エゴサポニン(有毒物質)を含む。
22	クヌギ(櫟)	ブナ科	雑木林を代表する木。どんぐりは2年目の秋に熟す。薪炭材、しいたけの原木に用いる。
23	マサキ(柃)	ニシキギ科	常緑低木。刈り込みに強いので生垣によく使われる。夏、小さな花が咲き、冬、赤い実が熟す。芽吹きが美しい。
24	ヒメコウゾ(姫楮)	クワ科	落葉低木。和紙や織物の原料。6~7月、橙赤の甘い実がなるが口当たりはよくない。

狐原山の植物たち

25	ツルウメモドキ(蔓梅擬)	ニシキギ科	落葉性のつる性木本。雌雄異株。秋の生花の材料。
26	アカメガシワ(赤芽柏)	トウダイグサ科	落葉高木。埋蔵種子、40℃以上でないで死なない。新葉に生える毛が赤い。カシワの葉と同じように葉を食べ物にのせる事に使った。
27	カマツカ(鎌柄)	バラ科	別名ウシコロシ。材が丈部で折れにくく鎌の柄や牛の鼻輪に用いた。落葉小高木
28	ヌルデ(白膠木)	ウルシ科	小葉の間にヒレがあるのが特徴。紅葉するので「ヌルデモミジ」とも。虫えいは5倍子(ごばいし)とよばれ、薬用や染料に使われる
29	ヤマウルシ(山漆)	ウルシ科	落葉低木。幹が赤い。樹液に触れるとかぶれる。
30	リョウブ(令法)	リョウブ科	葉を切って乾かして、米と一緒に炊くと「リョウブ飯」。古代から救荒植物として利用された。お茶も美味しい。
31	マルバアオダモ(丸葉青だも)	モクセイ科	落葉高木。木に粘りがあり野球のバッドに使われる。鋸歯が不明瞭でほとんど無いように見える。
32	イヌザンショウ(犬山椒)	ミカン科	トゲが互い違いに付く(互生)。サンショウはトゲが対に付く(対生)。葉や実に香りが少なくサンショウに比べ利用価値が少ない。
33	ウラジロガシ(裏白樫)	ブナ科	常緑高木。鋸歯が鋭い。ドングリは翌年の秋に成熟する。葉を煎じて民間薬に利用。材は硬く有用材。<狐原山のシンボルツリーに！>
34	シダレザクラ(枝垂れ桜)	バラ科	細い枝が枝垂れるものをシダレザクラという。花は淡紅色。形、色、大きさなど個体によって様々。別名イトザクラ
35	アオハダ(青膚)	モチノキ科	木の皮を爪で搔くと緑の内皮が現れる。雌雄異株。葉を火であぶると黒くなる。初夏に摘んでお茶にすると美味しい。秋に実る赤い実は美しい。
36	カラスザンショウ(烏山椒)	ミカン科	落葉高木。カラスとは「おおきい」の意味。生の枝は強い臭気がある。幹は古くなると刺は無くなり刺の基部のいぼ状の突起だけが残る。繁殖力が大盛。
37	アセビ(馬酔木)	ツツジ科	有毒植物。葉を煎じて殺虫剤に(昔は便所に入れてウジ殺しに)。乾燥に強く境界木としても利用。鹿は食べないが、馬は食べて酔ったようになる。<なぜ、馬は食べるのか→馬は中国から来た→中国にはアセビが無い→鹿は食べてはいけないというDNAを持っているが、馬にはない→だから馬は食べてしまう>花は春、白とピンク。
38	ウワミズザクラ(上溝桜)	バラ科	落葉高木。長さ8~10cmの白い房状(総状花序)の花を付ける。実は美味しい。鋸歯は鋭く上向き。
39	マメガキ(豆柿)	カキノキ科	落葉高木。柿渋をとるために各地で栽培されている。直径1~2cmの小さい柿の実がなる。
40	コシアブラ(漉し油)	ウコギ科	落葉高木。樹脂液をとり、漉して塗料(鉄の錆止め)に使っていた。新芽はテンプラやお浸し、和え物にすると、香りがあり大変美味しい。
41	タムシバ(嘸柴)	モクレン科	葉が甘く、良いにおいがする。花がコブシと似ているのでニオイコブシ(匂い辛夷)とも言う。春、タムシバがたくさん咲くと豊作。
42	シロモジ(白文字)	クスノキ科	落葉低木。葉に3つの切れ込みがあり風情があるので、茶庭に植えられる。葉に少し良いにおいがある。
43	ホオノキ(朴の木)	モクレン科	落葉高木。初夏、白い大きな花が咲く。花も葉もいい匂いがする。葉は朴葉味噌、朴葉寿司など飛騨高山の名物として有名。材はまな板 や下駄に利用。花と葉は日本の樹木の中でもっとも大きい。
44	ツクバネガシ(衝羽根樫)	ブナ科	常緑高木。枝先につくばね状に集まって付く。どングリは翌年の秋に実る2年型。
45	ウラジロノキ(裏白の木)	バラ科	葉の裏には白い綿毛が密集し白い。昔はトイレトペーパーのように使っていた。<フキ(蓆)も、おしりを拭いていたから「ふき」。フキノトウには、雄と雌があり雄の花は黄色で苦味が強く、雌の花は白っぽく苦味が少ない。>
46	タラノキ(榎の木)	ウコギ科	落葉低高木。伐採跡など日当たりのいい草地によく生える。新芽は山菜の王者と言われる。テンプラ和え物に。トゲの無いものをメダラという。

狐原山の植物たち

47	アカマツ(赤松)	マツ科	伐採後にいち早く目を出すパイオニア植物。マツボックリは2年かかっている。樹皮が赤い所からアカマツといわれる。常緑高木
48	ポプラ	ヤナギ科	普通、ポプラと呼ぶのはセイヨウハコヤナギの事。明治以降に導入された。成長が早く、紙の原料としてもちいる。風にそよぐ姿が美しい。
49	ササユリ(笹百合)	ユリ科	葉が笹の葉に似ている。花は淡紅色で芳香があり美しい。旧湯来町の町花
50	コウヤボウキ(高野箒)	キク科	高野山を枝をほうきの材料にしたことから、子の名がついた。花は9~10月。落葉小低木
51	コハウチワカエデ(小羽団扇楓)	カエデ科	別名イタヤメイゲツ。ブナ林に多い。カエデの中では葉が小さい方、紅葉の美しさは群を抜く。落葉高木
52	キリ(桐)	ゴマノハグサ科	落葉高木。成長が早い。木目が美しく、材がやわらかく、狂いが少ないので箆箆や下駄に利用される。日本で最も軽い木。
53	サクランボ	バラ科	セイヨウミザクラ(西洋実桜)。西アジア原産、明治の初期に日本に渡来。
54	ワラビ(蕨)	ワラビ科	日当たりの良い場所に生える。若葉は山菜。夏頃まで食べられる。枝分かれた所に密線があり、蟻を呼ぶ。ポチ袋の熨斗はワラビをデザインしたもの。(「これっポッチ」のポチ袋)